

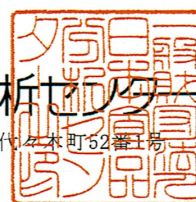
試 験 報 告 書

依 頼 者 株式会社 ピーアンドアール

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 CM-AFS

表 題 ウイルス不活化試験

2021 年 01 月 21 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

ウイルス不活化試験

1 依頼者

株式会社 ピーアンドアール

2 検体

CM-AFS

3 試験概要

検体にウイルス液を滴下(以下「試料」という。)し、所定時間保存した後、ウイルス感染価を測定した。また、あらかじめ予備試験を行い、ウイルス感染価の測定方法について検討した。

4 試験結果

1) 予備試験(中和条件の確認)

試料を細胞維持培地で洗い出すことにより、検体の影響を受けずにウイルス感染価が測定できることを確認した。

2) ウイルス感染価の測定

結果を表-1に示した。また、使用細胞及び培地を表-2、試験条件を表-3に示した。

表-1 試料洗い出し液のウイルス感染価測定結果

試験 ウイルス	対 象	log TCID ₅₀ /mL	
		開始時	3時間後
ネコカリシ ウイルス*	検 体	—	5.7
	対照(ガラス板)	6.2	6.5
インフルエンザ ウイルス	検 体	—	5.2
	対照(ガラス板)	6.0	5.7

TCID₅₀: median tissue culture infectious dose, 50 %組織培養感染量

保存温度: 室温

ウイルス液: 培養液を精製水で10倍に希釈

* ノロウイルスの代替ウイルス

表-2 使用細胞及び培地

使用細胞	ネコカリシウイルス: CRFK細胞[大日本製薬株式会社] インフルエンザウイルス: MDCK (NBL-2) 細胞 JCRB 9029株	
細胞増殖培地	10 %牛胎仔血清加イーグルMEM培地「ニッスイ」①[日水製薬株式会社]	
細胞維持培地	ネコカリシウイルス: 2 %牛胎仔血清加イーグルMEM培地「ニッスイ」① インフルエンザウイルス: イーグルMEM培地「ニッスイ」①	1000 mL
	10 %NaHCO ₃	14 mL
	L-グルタミン (30 g/L)	9.8 mL
	100×MEM用ビタミン液	30 mL
	10 %アルブミン	20 mL
	0.25 %トリプシン	20 mL

表-3 試験条件

試験ウイルス	<i>Feline calicivirus</i> F-9 ATCC VR-782(ネコカリシウイルス) <i>Influenza A virus</i> (H1N1) A/PR/8/34 ATCC VR-1469 (インフルエンザウイルス)
ウイルス液	細胞培養後のウイルス培養液を遠心分離して得られた上澄み液を精製水で10倍希釈
試料	検体(大きさ: 約3 cm×3 cm)にウイルス液0.2 mLを滴下
保存条件	3時間(室温)
中和条件	細胞維持培地2 mLで洗い出し
対照	ガラス板
感染価測定方法	TCID ₅₀ 法

以 上